普及活動情勢報告（平成２１年１１月分）

安芸農業振興センター

情勢報告

ＪＡ土佐あき園芸研究会にアスパラガス部会発足

10 月 23 日に JA 土佐あき園芸研究会総会で、アスパラガス部会が発足し、11 月 6 日に第一回の学習会を開催した。安芸市、中芸、羽根の生産者 10 名が、安芸市井ノ口の現地圃場とＪＡ本所 2Ｆ会議室で今後の管理と活動計画を話し合った。振興センターからはアスパラガス栽培管理及び IPM 技術を利用したコナジラミ類の防除実証と「アスパラガス栽培管理こよみ(半促成長期どり栽培)」(案)について説明した。今後、1 月中下旬に目慣らしと市場関係者との交流会及び定期的に現地検討会を開催することを決めた。

生産者期待のユズ搾汁施設完成！！

落成に多くの村民が集まった

10 月 26 日、北川村民が待望していたユズ搾汁施設が完成した。総事業費 3 億 7359 万円で搾汁機 8 台を備え従前の機械より処理能力が大幅に増強され、消費者ニーズに対応した衛生管理面も充実したものとなった。また、搾汁率がアップ（18.5%）することで、農家の所得向上に寄与できるものとなった。

今後は、品質の高い北川村ユズの生産増大を期待して、27 日から施設の本格稼働が始まる。振興センターでは、この施設を中心により一層生産組織の活動も活性化していく。

土着天敵産地間リレー（嶺北地区へｸﾛﾋｮｳﾀﾝｶｽﾐｶﾒ等採取に）

優れものの吸虫管

10 月 28 日に芸西村や安芸市の生産者 11 名が、土佐町田井、相川地区の米ナス生産圃場へ定着しているﾀﾊﾞｺｶｽﾐｶﾒ、ｸﾛﾋｮｳﾀﾝｶｽﾐｶﾒ、ｶﾒﾉｺﾃﾝﾄｳﾑｼなどの採取に行った。残念ながら圃場主とお会いできなかったが、参加した生産者間で吸虫管の作り方や土着天敵の活用法など情報交換がされており、有意義なものとなった。

この取り組みは 4 年目となり定着してきたが、産地間の情報交換も出来るよう支援をしていく。

吉良川千両は、出荷販売開始 20 周年！！

現地での検討会の様子

11 月 6 日、ＪＡ土佐あき吉良川支所千両部会の会員 10 戸と花き市場 8 社、関係機関、約 40 名が一堂に会し、出荷販売 20 周年記念大会が開催された。

これまでの 20 年のあゆみを記念誌で振り返り、30 周年、40 周年につなぐ決意を新たにした。

また同日、現地圃場にて実の色付きや枝数等の現状を共有した後に開催した 21 年産販売会議においては、今年産から見直す出荷規格について検討した。出荷予定本数は例年並み。11 月 17 日に目慣らしして、12 月 12 日から始まる千両市に向け備える。

これからも続いていく産地であり、振興センターの役割を明確にし、支援をしていく。

互いに学び教えあうユリ現地検討会

一作目が終わり二作目を前に葉焼け症について議論する。

11 月 10 日に球根部会(福田昌二部会長、9 名)の現地検討会が開催され、今回は安芸市近郊を対象とした。この時期、1 作目の収穫と 2 作目の定植作業が重なり今回ばかりは出席率100%を誇ってきた現地検討会も6割と少し寂しかった。それでも自分の圃場の説明は自身で行った。

現地では、葉焼け症や葉先枯れ症が発生し、実態の把握と対策を話し合った。特に、葉焼け症は天候の影響を強く受けるので、このところの天候不順が反映された結果となった。

そこで、JA や振興センターは、流行の品種の導入も大切だが、葉焼け症に強い品種の利用や球根の大きさもあまり大きくない物を使うよう助言し、部会員も納得していた。